

⑰インフラメンテナンス時代に対応した橋梁点検技術者の育成 (橋梁実モデル)

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局
九州技術事務所

キーワード 橋梁実モデル、体験型視察、技術者の育成

全建賞審査委員会の評価ポイント

点検技術者の不足が大きな課題となっているなか、自治体や民間企業、将来の担い手となる学生など、経験の浅い技術者を対象として研修を行い、メンテナンスに関する基礎知識や重要性を伝える場を創出した取組み。「技術者の卵」である学生も巻き込んで、点検作業を実体験させ、より実践的な技術者育成を実現している点や、参加者が前年の約3倍に伸びるなど関係者へのPRに努めている点が評価された。

1. はじめに

昨今、橋梁等インフラメンテナンスに関する話題や取り組みが多く聞かれる様になり、それに関する技術者不足についても大きな課題として取り上げられているところである。

当事務所は、技術者不足解消に資するため、経験の浅い技術者や将来を担う学生を対象としたメンテナンスに関する技術者育成にも力を入れており、橋梁実モデルにおいては橋梁点検を体験していただく形で視察や研修を受け入れている。

2. 事業の概要

この1橋で全ての損傷事例や施工不良事例等について学べる「橋梁実モデル」を平成29年度に整備し、コンクリート構造物に関する様々な劣化や損傷事例を実際に見て、触れて、何故そうなるのか考えることを可能とした研修体制を整え翌30年度より運用を開始した。

ところが、利用者は伸びず「これでは本来の目的である『技術者育成』に資することなど到底出来ない！」と危惧し、近隣関係者を招待した完成お披露目を開催し広く周知するとともに、実体験を通して楽しく知見を深めることが出来るよう施設の説明方法についても全面的に見直した。



橋梁実モデル

3. 事業の成果

当事務所は大規模災害時の防災拠点としての機能を持ち、災害対策車輛を所有し防災対応や災害時派遣等多くの実績があるため視察者が多く、橋梁実モデルも視察させて欲しいと要望もあつたことから視察メニューの1つとして加えることとした。

そして視察者を「新米技術者」として位置づけ、橋梁点検を行う際の留意点や施工不良がどのような不具合をもたらすのかなどについて、点検機器を使いながらの体験型視察を行ったところ、取り扱いが簡単で結果がすぐに見えるところが非常に良くわかりやすいと好評であり、インフラ点検の体験が出来る施設として広まり、多くの方が訪れた。

来訪者の内訳としては約680名に対し学生が7割を占め、我々にとって予想外の結果となったが、従来の育成対象者の他に「技術者の卵」である学生のインフラメンテナンスに関する「学びの場」が創出されたものと推察され、技術者育成において大きな効果が期待される。



シュミットハンマーや探査機をのぞき込む学生

4. おわりに

前述の効果のほか、相乗効果で事務所全体の視察者が昨年度の3倍(2,350名)にも伸びたことから、今後も口コミで広まることが予想される。

最近JICAの視察もあり国際色が出てきたところだが、どのような方が相手であろうと、短い時間でもわかりやすく興味を湧かせる説明に心がけて行きたいと考えているところである。

そして近い将来「あの橋梁実モデルでの体験が面白く興味を持ったので技術者を目指した。」と言われる日が来ることを願いつつ、最後に本施設の計画・検討・施工・運用に携わられた全ての方々に深く感謝の意を表して終わりとしたい。